

歌声伴奏サービス事業

特定非営利活動法人キミスタ

団体概要

2002年に何もない掘っ立て小屋から始まったプライベートスタジオ。いつしか「キミヒロのスタジオ＝キミスタ」と呼ばれ、皆さんに愛されながら、これまで道なき道を歩んできました。「ないものはつくる」を合言葉に、夏は暑く、冬は死ぬほど寒いキミスタで、ひとクセもふたクセもある仲間達に囲まれながら、試行錯誤する毎日。

「もっといい音で録れるはず！」 「修理すればまだまだ弾けるはず！」
本当は分かっているけど、誰も面倒くさがって手を出さない。そういうことを一つずつコツコツと励んできました。

しかし、現実は厳しい。ミュージシャンは得てして安く見られがち。「自分たちを含め、ミュージシャンを支援する団体がないなら作ってしまえ！」というわけで、この度キミスタはNPO法人として再出発することになりました。これまでやってきたことはもちろん、皆さんの笑顔が少しでも増えるようにこれからも頑張っまいります。今後とも「特定非営利活動法人キミスタ」をよろしくお願いします。

講師活動、慰問活動、バンド・イベントプロデュース、レコーディング、ギター製作・リペア、バンドTシャツ・グッズ製作、エフェクター製作、DVD撮影・編集等

静岡県沼津市大岡3584番地の4

<http://kimi-st.jpn.org/index.html>

055-928-5660

目的 高齢者施設をご利用の方々に歌声で笑顔届けたい

現在、高齢者社会の進展により、65歳以上の人口は、現在3,000万人を超えるなど（国民の約4人に1人）、高齢者介護の問題・介護予防の推進については大きな社会問題となっている。このような状況において、アメリカをはじめとした海外の高齢者施設等では、音楽療法が認知症の予防・治療に効果的であるということで普及してきているものの、日本では音楽療法についての公的な位置づけ（資格等）がないことから、この活動による普及を進めていく。

今年度の計画としては、引き続き、昨年度と同様の取り組みを実施したいと考えています。しかし、現状の課題を踏まえ、多くの施設はこれまでボランティアによる歌声事業を受け入れてきた経緯から、プロのミュージシャンによる音楽療法をこれと同等に見るケースが多く、同事業が受益者負担による自立運営を進めていくうえで、まだまだ理解が得られていない状況です。そのため、歌声伴奏の効果や、娯楽性が各施設等での評価、利用者アンケートを実施検証し、有料化に理解のある事業者を開拓していく予定です。また、地域で音楽療法を担う人材との連携した事業展開を模索し、幅広い分野の方と一緒に活動していきます。

実施概要 お呼びがかかればどこへでも行きます

15年前から歌声伴奏を始めました。活動を続けて感じたことは、歌の大切さと音楽の力です。歌うことで、その方々の記憶や思い出がよみがえります。

音楽療法に理解のある市内の高齢者施設を主体として、高齢者が参加し一緒に歌う音楽イベント活動や音楽療法の普及活動を進めるとともに、同事業を担う人材との連携を図る事業を実施。

施設等での歌声伴奏はもとより、施設合同でのイベントや、クリスマス会などにもお呼びいただき、お邪魔するたびに次回のスケジュールをいただく形式となり必要不可欠な活動と確信しております。

方法

月3回程度：年間 36 回 市内高齢者施設等への啓発活動・セミナー・音楽療法（音楽イベント）の実施

有料化事業所数 10 事業所

利用者アンケートの実施

現在、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう地域包括ケアシステムの構築が求められており、幅広い年齢層の市民の参画により、介護予防の取り組みが検討されています。本事業は、市内において認知度が低い、高齢者に対する音楽療法の普及と、これに参画する新たな人材の育成を行うものであり、高齢者福祉・介護予防施策における国・市が進めている方針に合致したものです。

各施設の訪問先

「歌声伴奏サービスとは」

SNSでフォームから参加者を募る

参加費2,500円 参加人数10人まで

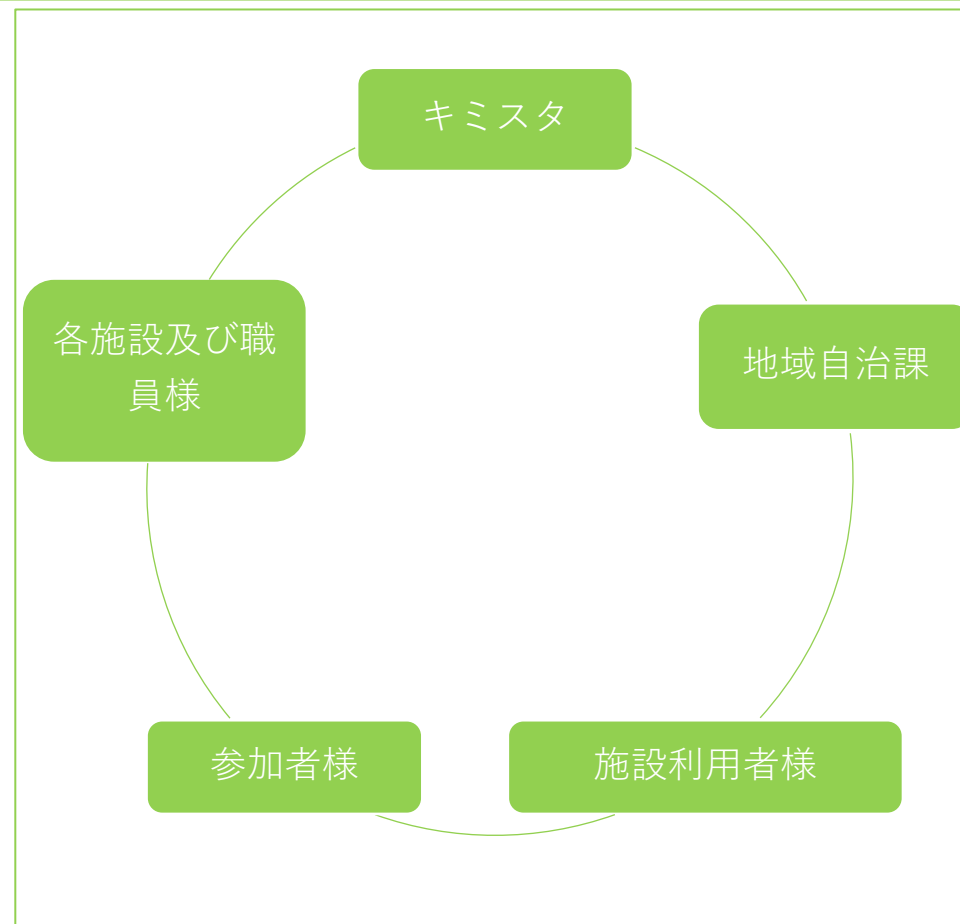
募集用SNSサイト <https://www.facebook.com/kimist.since2002>

考察

懐メロを歌えば色々な予防になる

これまで認知度が低かった音楽療法を体験していただくことで、新たな介護予防施策への理解、これを担う人材の確保が進展し、同じ志を持つ市民のコミュニティの構築が進んでいくことが見込まれます。課題である資金面や運営体制を見直し、継続可能な体制の構築を図ります。

音楽を媒体とした、新たな介護予防施策の取り組みを推進していくことにより、市内の演奏家を高齢者福祉、介護予防の施策に参画させていくことが可能となります。



今後の課題

歌声伴奏サービスの有料化、伴奏者の人口を増やす

福祉施設からのオファーはかなりあります。実施については問題ありませんが、今回申請する上で、必要最小限の経費を計上し、また、課題である資金面や運営体制も見直したうえでの取り組みとなります。

無償とのこともあって福祉施設からのオファーがかなりあり好評を得ています。この活動に対する理解はもちろん必要ですが、同時に施設職員の意識改革も必要であると感じています。一部の施設ではこの活動に対して無関心な職員が見受けられます。入所者と職員が一緒に、馴染みの歌を歌い、笑い、軽い運動をすることで一体感が生まれ、介護予防の推進につながるものと認識しています。それには、今後も施設への活動を通して理解を深めていきます。

これからの展望

当団体は、市内大岡にプライベートスタジオを設置し、ここを拠点としたギター教室・公演活動に取り組んでおり、学生・社会人、高齢者まで幅広い年齢層によるレッスン生が所属しております。レッスン生が音楽療法のノウハウを学び、新たに社会参画していくことで、音楽を通じた新たなコミュニティの創出、多様な主体が高齢者を支える体制が整備されていくものと考えています。